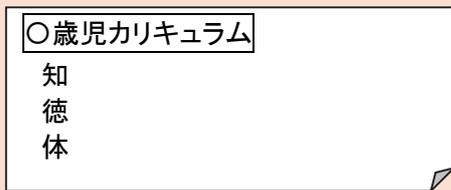


## 2 2歳児から5歳児カリキュラムとラーニングデザイン

【2歳児から5歳児】



各歳児のカリキュラムを示しています。「子どもの育ち」と「教育的意図をもった働きかけ」で示しています。

各歳児の「知・徳・体」における「各期のねらい」と「教育的意図をもった働きかけ」を詳しく示しています。

集団での活動が見られるようになる2歳児、そして、3歳児・4歳児・5歳児のカリキュラムでは、それぞれの年齢で育みたい子どもの育ちを「知・徳・体」の側面から捉えました。また、次のように観点を設定し、指導者・保育者の教育的意図をもった働きかけを明確に記載しています。

<知>	言語	思考	創造
<徳>	人と関わる力	規範意識	生命の尊重
<体>	運動	基本的な生活習慣	健康・安全 食育

「幼児教育の改革のための基本的な考え方」〔P136【資料2】参照〕において課題としている「規範意識」や「数を含む概念、空間認識」「言語力」の育成を意図して指導するための観点を設定しています。

各歳児のカリキュラムにおける期のねらいと指導者・保育者の教育的意図をもった働きかけを、より具体的に示したものがラーニングデザインです。

2歳児のカリキュラムは、ラーニングデザインを新たに作成し、養護と教育を一体的に行う教育的意図をもった働きかけを記載しました。

【2歳児～5歳児カリキュラム】

各歳児の全体的な発達の姿を示しています。

2歳児		3歳児		4歳児		5歳児	
各歳児の全体的な発達の姿を示しています。							
各歳児で大切にしたい、家庭との連携を示しています。							
各歳児でねらいを示していますが、子どもの発達はまだらに進むため、明確な区切りをつけず、幅をもたせて斜線で示しています。							
各歳児の子どもの育ちを、「知・徳・体」それぞれの視点で示しています。							
指導者・保育者の教育的意図をもった働きかけを、「知・徳・体」それぞれの視点で示しています。							

各歳児で大切にしたい、家庭との連携を示しています。

各歳児でねらいを示していますが、子どもの発達はまだらに進むため、明確な区切りをつけず、幅をもたせて斜線で示しています。

各歳児の子どもの育ちを、「知・徳・体」それぞれの視点で示しています。

指導者・保育者の教育的意図をもった働きかけを、「知・徳・体」それぞれの視点で示しています。

【＜知・徳・体＞ラーニングデザイン】

各歳児で、「知・徳・体」それぞれの視点での発達の姿を示しています。

各歳児で、「知・徳・体」それぞれの視点での発達の姿を示しています。	
各歳児で、「知・徳・体」それぞれの視点で、家庭と連携したいことを示しています。	
指導者・保育者の教育的意図をもった働きかけを、詳しく、具体的に示しています。	
教育的意図をもった働きかけ	
言語 (聞く・話す・コミュニケーション・文字等)	事例 18
思考 (算数・図形・空間認識・自然科学等)	
創造 (造形・音楽・身体表現等)	

各歳児で、「知・徳・体」それぞれの視点で、家庭と連携したいことを示しています。

指導者・保育者の教育的意図をもった働きかけを、詳しく、具体的に示しています。

教育的意図をもった働きかけを、より具体的に示している事例番号を掲載しています。

幼児期の教育においては、子どもが生活の全体を通じて様々な体験を重ねる中で「生きる力の基礎」を培うものであり、「知・徳・体」に基づき独立して指導するのではなく、それらのねらいが総合的に達成されるように、計画的、継続的に指導する必要があります。その中で、指導者・保育者が子どもや保護者と向き合い、子どもの心身を育てていくために、まず大切にしなければならないことを<指導上大切にしたいこと>としてまとめています。

この<指導上大切にしたいこと>を指導の根底にもちながら、子どもの姿を多面的に捉え、各時期の発達の特徴や一人ひとりの実態を踏まえて、次項から示されているカリキュラムをもとに、それぞれの幼稚園・保育所・認定こども園等の実態に即したカリキュラムを作成することが大切です。

#### <指導上大切にしたいこと>

**2歳児**では、生活に必要な基本的な習慣については、一人ひとりの子どもの発育、発達状態、健康状態をしっかりと把握し、個々に応じた関わりが必要です。落ち着いた雰囲気と、自分でしようとする気持ちが満足できるような環境を整えることが大切であると考えます。また、思い通りにいかないと泣いたり、かんしゃくを起こしたりします。自我の育ちとして受け止め、時間をかけて自分の感情を鎮め気持ちを立て直せるようにしていくことも必要です。

**3歳児**では、指導者との温かい信頼関係を育てていくことを指導の根底に置き、あるがままの姿を受け入れながら一人ひとりの子どもの理解に努めることを大切にしたいと考えます。生活のあらゆる場面で機会を捉えて、一人ひとりのよさ、頑張りを言葉で認め、信頼関係を育むようにしながら、自己発揮できる場を設け、集団の中で、その子どもなりの力を表現できる環境を整えることが大切であると考えます。また、自分の思いを様々な形で少しずつでも出していけるようにしながら、相手の気持ちにも気付けるように代弁するなどして、指導者が友達関係の仲立ちをすることも必要となってきます。

**4歳児**では、友達の存在が大きくなっていくことから、一人ひとりの子どもの理解に努めるとともに、友達との関わりや関係性を育むことを大切にしたいと考えます。意欲をもって行動しようとする姿を見逃さず、その都度認め、共感したり、自己主張するときと自分の気持ちを抑えるときの判断ができるよう支えたりしながら、その様子を周囲の友達に伝え、励みや刺激となるようにします。

また、異年齢児との交流や役割活動等を通して、遊ぶ楽しさやルールを知らせるとともに、子ども同士の関係をつなぎ、優しさ、思いやり、関わり大切さなどに気付けるような働きかけをすることも大切にしたいと考えます。

**5歳児**では、0歳児から5歳児までの育ちを土台としながら、幼児の遊びの中の学びの芽生えを理解し、小学校教育への見通しをもってその芽を育むことを大切にしたいと考えます。仲間としての連帯感が感じられるように、子ども同士の関係をつなぐことや、自分たちで考えたり決めたり物事を進めたりする経験や、友達と考えを伝え合う経験等を大切にし、共通の目的や課題に向かって取り組む姿勢や、生活又は遊びの中で問題を解決する力、他者との関係の中で自己調整する力等を育むようにします。また、一人ひとりが出している力や見方・考え方は、様々であることを理解し、子どもへの具体的な知らせ方を工夫したり、困難なことに挑戦するときには、子どもの気持ちの変化を受け止め、共感し、励ましたりすることを大切にしたいと考えます。